

クラウドセキュリティ 補足資料

クラウドセキュリティ講義補足資料

- 本資料は皆さんが行うクラウド環境のハンズオンラボであるQwiklabの補足説明資料です。
- ラボの手順はサービスの中に含まれていますが、必要に応じて適宜参照してください。
- 本Qwiklabのサービスは、有償のクレジットを使うことで様々なラボを実施できます。今回、講義で指定しているラボも選択ができてしまうので、必ず、講師が指定したラボを選択してください。
- 本Qwiklabは実機環境を利用します。クラウド環境では、ユーザーインターフェースが予告なく変更されることがあるため、場合によっては手順が異なる場合があります。必要に応じて講師がフォローします。

Labを始める前に

ラボへのログイン

- <https://www.qwiklabs.com/>
 - 指定されたアカウントでログインしてください。
- ウェルカムメッセージが表示されます。表示が英語の場合、右上のアカウント確認画面を左クリックすると、米アカウントの編集が可能です。プロフィール情報から「その他」の中の「言語」を日本語にしたうえで「Update User」を行ってください。（英語版のままだと日本語のラボが選択できない場合があります）
- 入力が終わりましたら画面左の「カタログ」を左クリックしてください。

The screenshot shows the Qwiklabs homepage. At the top, there is a navigation bar with a menu icon, the Qwiklabs logo, a search bar, and user profile icons. The main content area has a sidebar on the left with links to Home, Catalog, and My Learning. The main heading says 'ようこそ、Shogo さん' (Welcome, Shogo). Below this, a paragraph explains that Google Cloud Platform and Amazon Web Services certification information is provided, and users can learn about cloud services through various courses. A section titled '進行中' (In Progress) displays three course cards: 'Websites & Web Apps', 'Deployment & Management', and 'Big Data on AWS'. Each card shows a progress bar and the course title. A chat button is located in the bottom right corner.

ホーム
カタログ
マイラーニング

ようこそ、Shogo さん

Google Cloud Platform と アマゾンウェブ サービス への一時的な認証情報が提供されるので、実際にサービスを使いながらクラウドについて学ぶことができます。クラスルーム型とセルフペース型に分かれており、入門レベルから専門家レベルまで、また 30 分間のラボから数日間にわたるコースまで、幅広い選択肢が用意されています。トピックは機械学習、セキュリティ、インフラストラクチャ、アプリケーション開発など多岐にわたり、あらゆるニーズにお応えします。

進行中

クエスト
Websites & Web Apps
Deployment & Management
Big Data on AWS

チャット

最初のラボの選択

- 画面上部の検索窓に“Building Your First Amazon Virtual Private Cloud (VPC)”と打ち込んでください（打ち込んでいる途中に候補がでるのでそちらを選択していただければOKです。
- 注意：当初は本ラボの日本語版があったのですが、9/27時点では提供されていないようです。英語で手順を進める、もしくは本資料を参考に進めてください。

The screenshot shows the AWS Labs search interface. At the top, there is a search bar with the text "Building Your First Amazon Virtual Private Cloud (VPC)". Below the search bar, the results are displayed. The first result is titled "Building Your First Amazon Virtual Private Cloud (VPC)" and is marked as a "ハンズオンラボ" (Hands-on Lab). The description states: "This lab demonstrates how to build an Amazon Virtual Private Cloud (VPC) which contains private and public subnets, routing tables, and a NAT server to allow private subnets to access the Internet." The result has a rating of 5 stars, a duration of 1時間 25分 (1 hour 25 minutes), and a credit cost of 8 credits. On the right side, there is a "フィルタ" (Filter) panel with options for "クラウド環境" (Cloud Environment) and "形式" (Format). The "形式" section shows "指定なし" (None) selected with a blue checkmark, and "ハンズオン" (Hands-on) as an unselected option.

IKLABS

Building Your First Amazon Virtual Private Cloud (VPC)

件の結果

並べ替え: 関連性

ハンズオンラボ

Building Your First Amazon Virtual Private Cloud (VPC)

This lab demonstrates how to build an Amazon Virtual Private Cloud (VPC) which contains private and public subnets, routing tables, and a NAT server to allow private subnets to access the Internet.

★★★★★ 1時間 25分 クレジット: 8

フィルタ

クラウド環境

形式

☒ 指定なし

☐ ハンズオン

ラボを始める前の注意

- 本ラボは指定した時間のみ利用ができる実機環境です。1時間25分を経過すると強制的に終了となりますのでご注意ください。
- 早い人は30分もあれば完了するラボです。ただ、途中で手順をミスすると原因究明に時間がかかったりもします。
- 本ラボの最終成果物はどのようなものかをご理解いただいてから進めたほうがよいので、こちらの資料を最初に読んでおいてください。Taskごとに間違えそうなポイントは書き出しておいたので参考にTaskに取り掛かる前に該当ページを読んでおくのもいいでしょう。

このラボでは何をつくるのか

- 簡単に言うとAWS上に自分のデータセンターを構築し、そこにWebアプリケーションを設置します。
- 本ラボではAWSの仮想ネットワーク環境であるvirtual private cloud(VPC)を作成し、その中に仮想サーバーインスタンスであるEC2によるWeb ServerとマネージドデータベースサービスであるAmazon RDSによるMySQLデータベースを作成します。
- 完成した環境ができるとインターネット経由でアクセスを行ってDB内の情報を操作できるようになります。

In this lab you will manually:

- Create an Amazon Virtual Private Cloud (VPC)
- Create a public and private subnets
- Create an Internet gateway
- Create a Route Table and added a route to the Internet
- Create a security group for your web server to only allow HTTP traffic to your web server
- Create a security group for your MySQL RDS instance to only allow MySQL traffic from your public subnets
- Deploy a web server and a MySQL RDS instance
- Configure your application to connect to your MySQL RDS instance

ラボの開始（手順の日本語版です）

- 画面左上の「ラボを開始」をクリックすることでラボ環境の立ち上げが始まります。
 - ラボによっては開始までしばらく時間がかかるものもあります。（このラボだと2分）
 - 休憩などをとる場合は、ラボを開始する前に行うか、ラボを開始し、環境が整う前に実施してください。
 - reCAPTCHAのクリックも忘れずに。
 - “一緒に開始”でOK
- 時間がゼロになっても“コンソールを開く”が出るまではちょっと時間がかかるかもです。

ラボを開始する

1. **ラボを開始** をクリックして、ラボを起動します。

ラボリソースのプロビジョニングが開始し、プロビジョニングが完了するまでの推定時間が表示されます。プロビジョニングが完了するまでラボを実行できません。

i トークンを求められたら、配布されたトークン（または購入したクレジット）を使用してください。

2. **コンソールを開く** をクリックします。

AWS コンソールに自動的にログインします。

⚠ 別途指示がない限り、リージョンは変更しないでください。

ラボの開始（手順の日本語版です）

- 二通りの時々発生するエラーに対するガイドが記載されています。エラーが出なければ無視して進んでください。

一般的なログインエラー

エラー: フェデレーションログイン資格情報

Your unique, federated login credentials are being created. Please try again in 30 seconds.

このエラーが発生した場合は、次のように実行します。

- ブラウザのタブを閉じて、ラボの最初のページに戻ります
- 数秒間そのまま待ちます
- もう一度、[コンソールを開く](#) をクリックします

これで AWS マネジメントコンソールが開くはずです。

エラー: ログアウトする必要がある

エラー: ログアウトする必要がある



Amazon Web Services サインインページ

別の AWS アカウントにログインするには、まずログアウトする必要があります。

ログアウトするには、[ここをクリックしてください](#)。

利用規約 プライバシーポリシー © 1996-2018, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates.

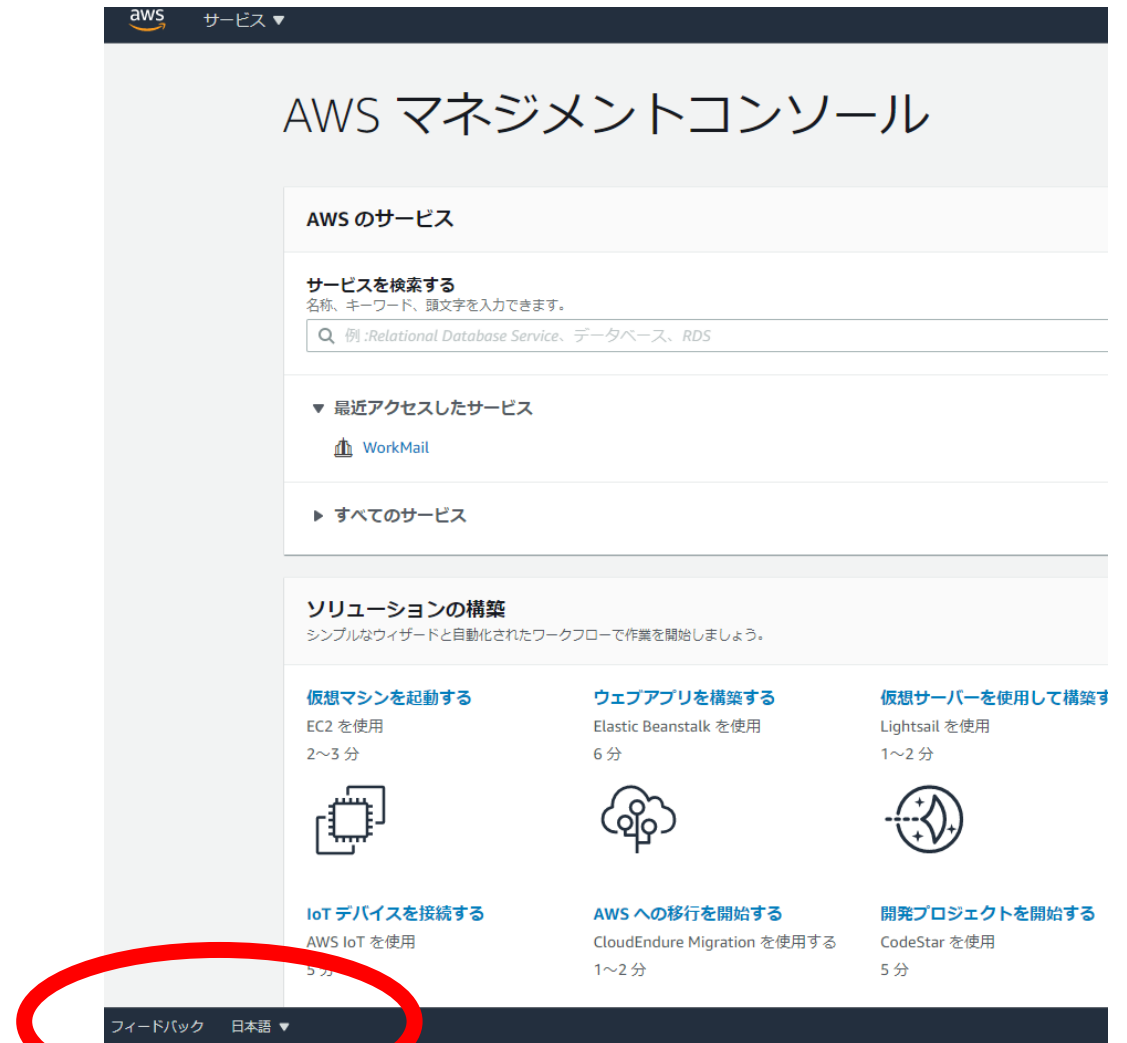
An amazon.com company

このエラーが発生した場合は、次のように実行します。

- [\[ここをクリックしてください\]](#) をクリックします
- ブラウザのタブを閉じて、ラボの最初のページに戻ります
- もう一度、[コンソールを開く](#) をクリックします

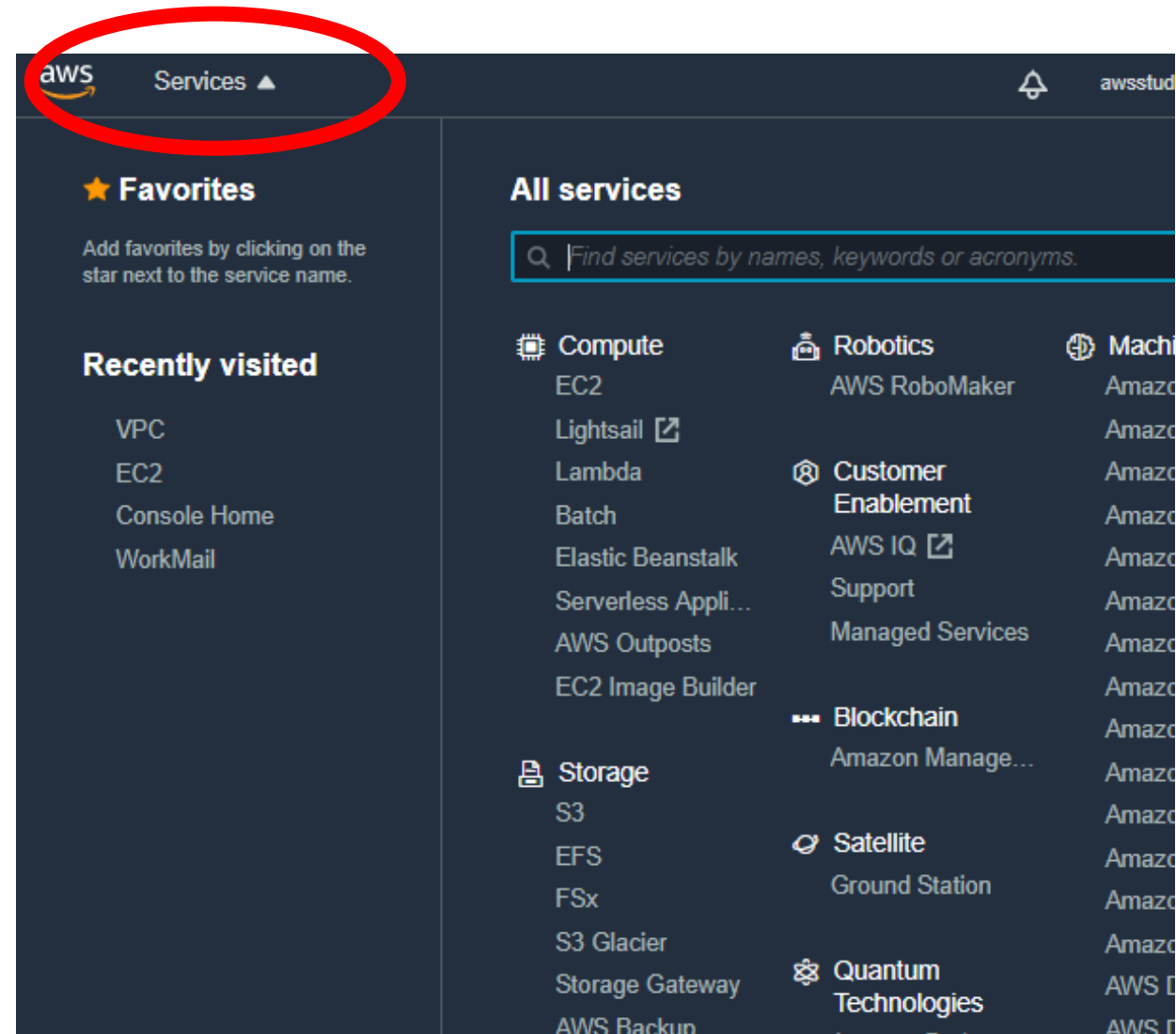
AWS マネジメントコンソールの補足情報

- 本ラボでは、手順が英語で準備をされていますので、言語が日本語の場合、英語への変更をお勧めします。画面左下で言語選択が可能ですので English(US) を選択してください。



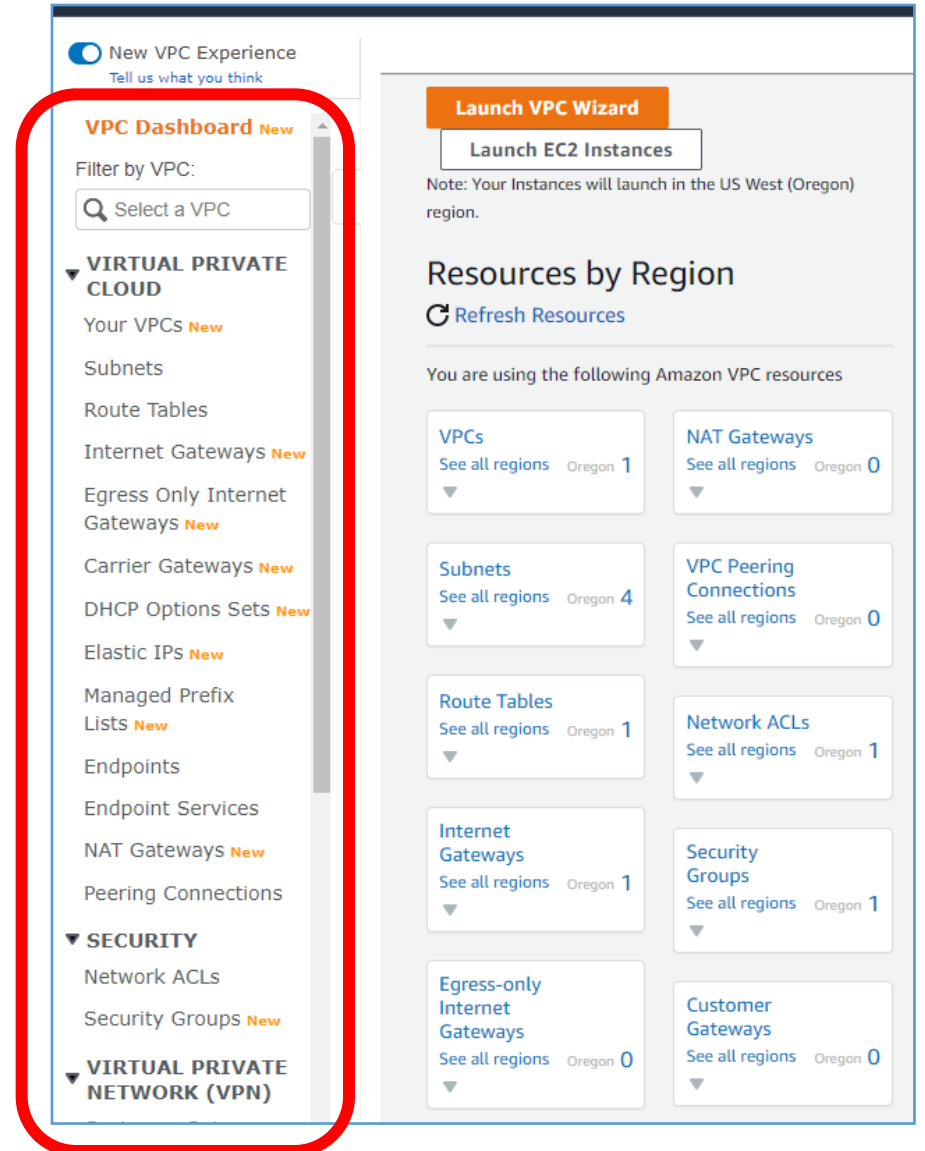
AWSマネジメントコンソールの補足情報

- ユーザーインターフェースの変更などによりボタン名などが異なることもあるので注意してください。
- “Services”と示されているボタンは画面の左上に表示されています。
- また、一度つかったものはRecently visitedに表示されますし、All servicesの検索窓にサービス名を入力して選択することもできます。



AWSマネジメントコンソールの補足情報

- 手順上、“navigation pane”と締められているのは、右記です。



AWSマネジメントコンソールの補足情報

- リソースの選択はチェックボックスをクリックして行います。
- 同時に複数が選択されてしまっていることもあるので指示を読みながら操作するものだけを選んでください。

<input type="checkbox"/>	Name	Subnet ID
<input checked="" type="checkbox"/>	Public 1	subnet-0c263e90a8013

このように水色で埋まっていると
Selectされている状態
複数Selectなどもあるので操作上
気を付けてください

AWSマネジメントコンソールの補足情報

- 様々なリソースの作成などを行うときの“Create ***”ボタンは通常、画面の左下に配置されます。（スクロールしないと出てこないことがあったり、名前が単純にCreateになっていたりすることがあります。

Name tag - optional
Creates a tag with a key of 'Name' and a value that you specify.

my VPC

IPv4 CIDR block [Info](#)

10.0.0.0/16

IPv6 CIDR block [Info](#)

☒ No IPv6 CIDR block

☐ Amazon-provided IPv6 CIDR block

☐ IPv6 CIDR owned by me

Tenancy [Info](#)

Default

Tags
A tag is a label that you assign to an AWS resource. Each tag consists of a key and an optional value. You can use tags to search and filter your resources or track your AWS costs.

Key	Value - optional	
Q Name	Q my VPC	Remove

[Add new tag](#)

You can add 49 more tags.

Cancel **Create VPC**

ラボを進めるうえで注意してほしいこと

- 本ラボ環境にはAWSがデフォルトで用意している環境であるDefault VPCやDefault Subnet等が用意されています。しかし、ラボでこれらを使うことはありません。設定を選択する際に、これらのDefault***を選んでいなかを必ず注意しましょう。
- ラボの手順では指定された値を入力することがあります。PC上でメモ帳などのエディタを開いて入力値をコピー＆ペーストできるようにしておく
と便利ですし、あとでトラブルシューティングに役立ちます。
- ネットワーク関連でよくある間違いは“public”と“private”の指定間違いです。ネットワークの経路などを指定する際には注意しましょう。
- 本ラボではAWSのマネジメントコンソールとは別にWebアプリケーションを操作するためにブラウザで別のタブをひらきます。
- もしもあやまってAWSのマネジメントコンソールを閉じてしまった場合は、Labの“コンソールを開く”からAWSにアクセスをしてください。

Labのサポート手順

Task1:VPCを作る。

- 最初のタスクとしてお客様専用のネットワーク空間であるVPCを作成します。このVPCはデフォルトではインターネットへの接続も他のユーザーとの共有も行われなない完全な閉鎖空間となります。本手順では、専用の空間内と広さ（IPv4 CIDR block）を指定します。
- このラボで実際にそこまでを利用はしませんが、65531のIPアドレス（5つのIPはAWSが内部で利用）を利用できる空間を作ることになります。

5. Click **Create VPC** then configure:

- Name tag: **My VPC**
- IPv4 CIDR block: **10.0.0.0/16**
- Click **Create**
- Click **Close**

画面右下のCreate VPCをクリックすればOKになっています（ちょっと手順違うかも）

Task2：パブリックサブネットの作成

- 作成したVPCの中にインターネットから接続できるサブネット（パブリックサブネット）と内部アクセスのみに閉じるサブネット（プライベートサブネット）にわけていきます。本手順ではパブリックサブネットを作成します。
- 本パブリックサブネットの作成は2回行われることに注意してください。VPCは仮想的なネットワーク空間を提供するものですが、AWSにはAvailability Zoneと呼ばれるデータセンター群があり、環境としては二つのデータセンターにまたがる環境を作成していることになります。手順の中でどのAvailability Zoneに作ったかを間違わないようにしてください。

Zone

Subnets

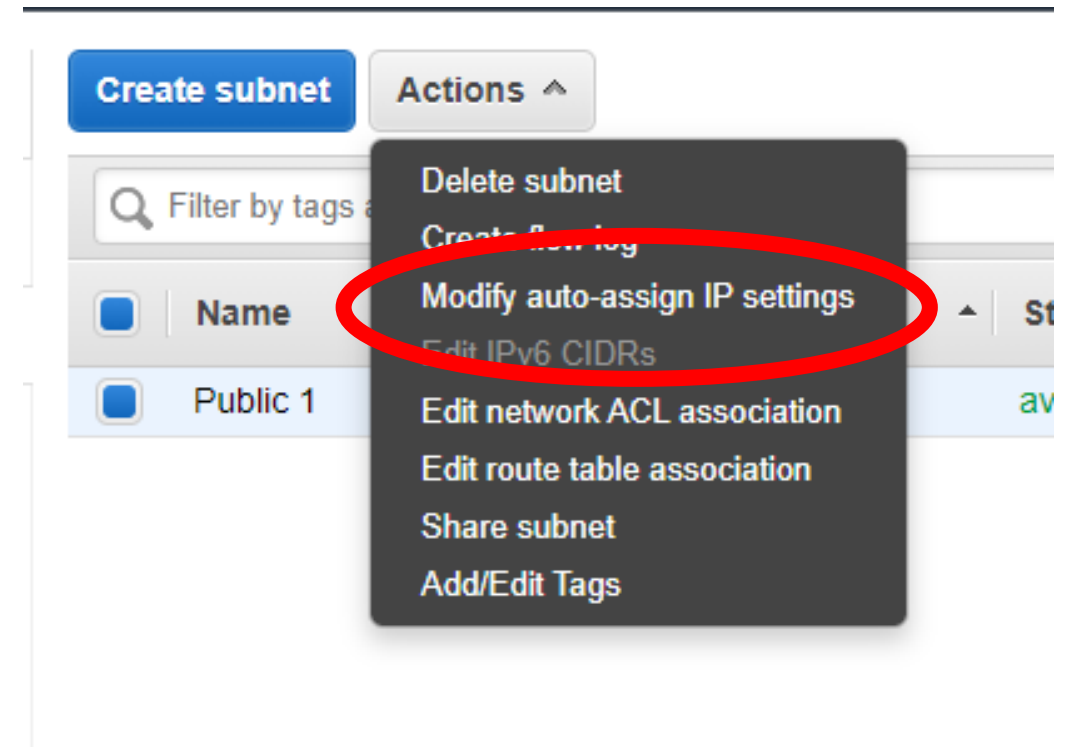
Filter by attributes

Name	ID	Network Border Group	Group Name
No preference			
us-west-2a	usw2-az1	us-west-2	us-west-2
us-west-2b	usw2-az2	us-west-2	us-west-2
us-west-2c	usw2-az3	us-west-2	us-west-2
us-west-2d	usw2-az4	us-west-2	us-west-2

クリックすると選択肢があらわれます。Firstと言われた場合は一番最初のを、Secondは次のものを選びましょう

Task2：パブリックサブネットの作成

- 手順10としてこのサブネット内に構築されたサーバーインスタンスに対し、パブリックIPアドレス（インターネットから接続可能なアドレス）を自動的にアサインするように設定します。
- Actionsボタンは選択できるサブネットの上部にあります。



Task3：インターネットゲートウェイを作成する

- 手順2ではパブリックサブネットを作成しましたが、このままではインターネットに接続はできません。なぜならVPCにインターネットへの出入り口が作られていないからです。本手順ではInternet Gateway（VPCと外部への接続を許可する出入り口）を作成します。
- インターネットゲートウェイはAWSが管理しているネットワークコンポーネントであり、冗長化や可用性が確保されているため、大量のトラフィックが到達した場合でも経路の確保が可能です。また、TASK 2で指定したような指定したパブリックIPアドレスへの変換（NAT）を行います。

Task4: ルートテーブルを作成し、ルートをサブネットに紐づける。

- この時点において、サブネットとルートテーブルの紐づけは、サブネットの「Route table ID」を指定することで可能になります。この操作は、サブネットの「Route table ID」を指定することで可能になります。
- 本手順は、サブネットの「Route table ID」を指定することで可能になります。

リソースの詳細情報が見にくい場合はこちらをドラッグした上に引き上げることができます。

タブを操作するとEdit routesなどができます。

Task5 : Web Server用のSecurity Groupを作成します。

- Security groupはAWSにおけるFirewallサービスです。従来であれば内外のネットワーク環境においてFirewallを設置することが一般的でしたが、AWSでは個々のサバインスタンス毎、もしくはサバインスタンスのグループ単位にFirewallを設置することができます (Ex.Webサーバ群用F/W、データベースサーバ用F/W)
- 本手順ではWeb Server用のSecurity Groupを作成し、HTTP リクエストをどこからでも受け付け可能なように設定します。

The screenshot shows the 'Inbound rules' configuration for a Security Group. The 'Inbound rule 1' section is active, showing a table with columns: Type, Protocol, Port range, Source type, Source, and Description - optional. The 'Type' dropdown is set to 'HTTP', the 'Protocol' dropdown is set to 'TCP', and the 'Port range' is set to '80'. The 'Source type' dropdown is set to 'Anywhere'. A red circle highlights the 'Type' and 'Source type' dropdowns. A blue callout box points to these settings with the text: 'HTTP Anywhereの指定は、HTTP（80番ポート）のリクエストをどこからでも受け付けることを意味します'.

HTTP Anywhereの指定は、
HTTP（80番ポート）のリクエ
ストをどこからでも受け付ける
ことを意味します

Task6:Webサーバをパブリックサブネットに構築します（1 / 2）

- 本手順ではパブリックサブネット内に仮想サーバインスタンスであるEC2を構築し、インスタンスの立ち上げと同時にウェブサーバのインストール、データベースとの接続情報を設定します。これにより環境が立ち上がった段階で利用者は簡単なWebアプリケーションが利用できる状態になります。
- 注意書きにあるようにAmazon Linux AMIを選択してください。Amazon **Linux2 AMI**はエラーになります。

Amazon Linux AMI 2018.03.0 (HVM), SSD Volume Type - ami-0841edc20334f9287

必ずこちらを選択！

Amazon Linux 2 AMI (HVM), SSD Volume Type - ami-0528a5175983e7f28 (64-bit x86) / ami-0476b0c0bd036545d (64-bit Arm)

Amazon Linux 2を選択した場合、スクリプトがエラーになり、動きません。
もしもWebサーバにブラウザからアクセスできない場合、名前を多少変えて、作り直してください

- 手順37のコマンドは決して手入力を行わず、手順をコピー＆ペーストしてください。（打ち間違いで動かなくなるものになります）

```
#!/bin/bash -ex
yum -y update
yum -y install httpd php mysql php-mysql
chkconfig httpd on
service httpd start
cd /var/www/html
wget https://s3-us-west-2.amazonaws.com/elasticbeanstalk-us-west-2-901445818870/spl/spl-13/scripts/app.tgz
tar xvfz app.tgz
chown apache:root /var/www/html
```

右上をクリックするとコピーができます。

上記をここに貼り付けます。
これにより、サーバ起動時に上記コマンドが実行されます

Network interfaces

Device	Network Interface	Subnet	Primary IP	Secondary IP addresses	IPv6 IPs
eth0	New network interface	subnet-0adee65f	Auto-assign	Add IP	Add IP

Advanced Details

Metadata accessible: Enabled

Metadata version: V1 and V2 (token optional)

Metadata token response hop limit: 1

User data: ☒ As text ☐ As file ☐ Input is already base64 encoded

(Optional)

Cancel Previous Review and Launch Next: Add Storage

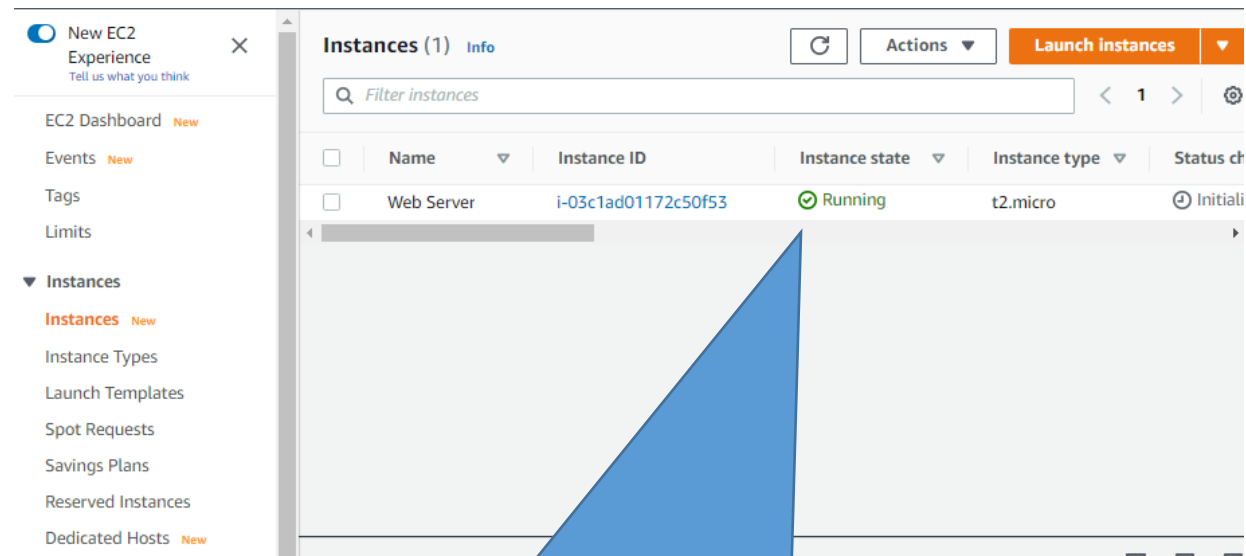
Task6:Webサーバをパブリックサブネットに構築します（2 / 2）

- 注意：手順42でSecurity groupの設定がありますがTask5で作成したSecurity groupを指定してください（新たに作成しないでください）
- 手順43ではSecurity groupのポートがインターネットのどこからでも接続できることに関する警告がありますが、無視してかまいません。（Webサーバなのでどこからでも接続できないと困ります）

Assign a security group: ☒ Create a new security group
☐ Select an existing security group

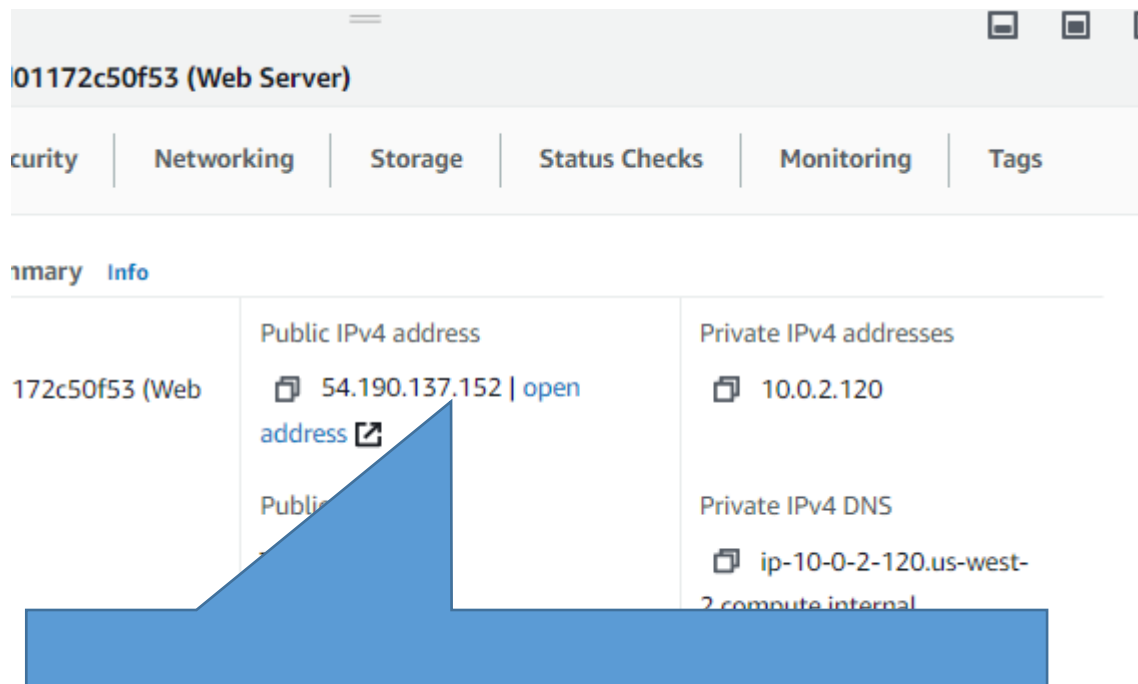
本Labではインスタンス作成以前に先にSecurity groupを作成します。
必ずSelect an existing security group を選択して、事前に作成したSecurity Groupを選んでください。

- インスタンスおよびWebサーバの立ち上げには数分かかります。手順47で示されているようにInstanceの状態が緑になるまでしばらくお待ちください（時々Refreshしてください）

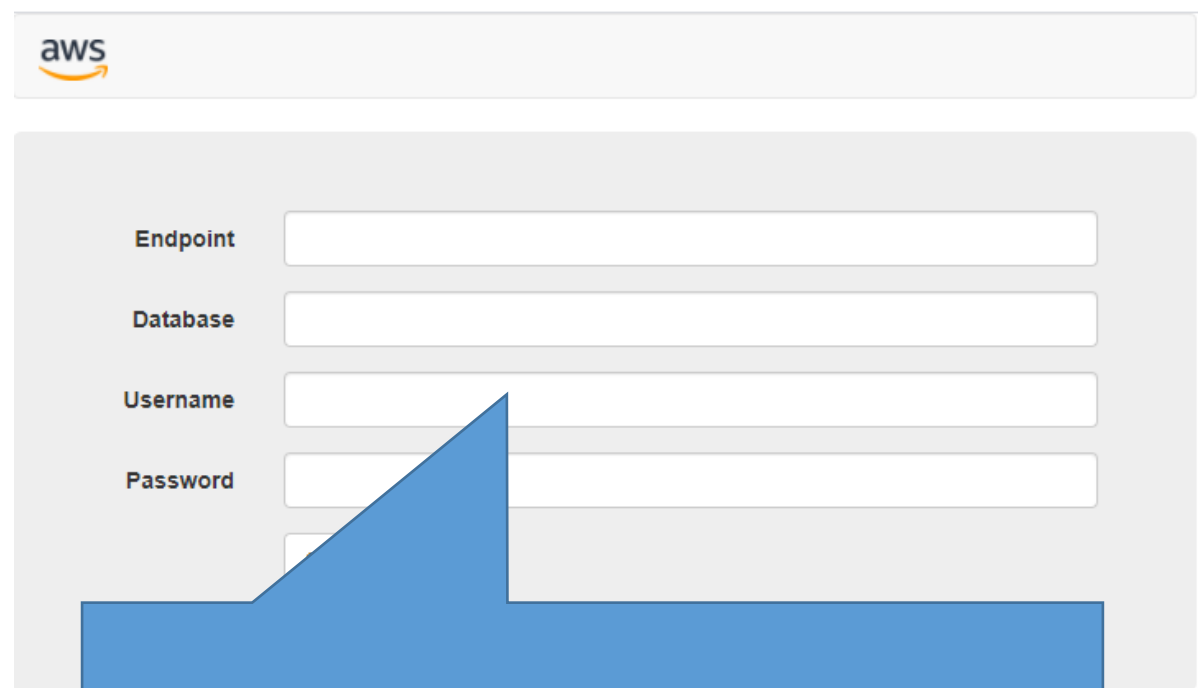


表示がRunningになればアクセス可能です。
Webサーバを選択する（左のチェックボックスを選ぶ）とWebサーバの各種情報がみえます）

- 手順51にあるような画面がブラウザで表示できるようになれば成功です。



Webサーバ情報内にPublic IPv4アドレスが表示されているはずです。ブラウザで別のタブを開いて、本IPアドレスを入力してください



こちらが表示されればここまでOKです

Task7:My SQLサーバ用のプライベートサブネットをつくる

- データベースは直接外部とネットワーク接続をする必要はないため、Webサーバとのみ通信を許可するプライベートサブネットに構築することが一般的です。本手順ではMySQLを稼働させるためのPrivateサブネットを設計します。
- 手順自体はTask2とほぼ一緒です。Task 2 では自動的にパブリックIPアドレスをアサインしましたがデータベースはパブリックIPアドレスは不要のため、その手順がありません。

Task8:データベースサーバ用のSecurity Groupを作成する

- AWSでは異なるサブネットであってもネットワークの通信は可能です。その代わり対象となるインスタンス間にSecurity Groupを配置することで通信を制御します。
- WebサーバのSecurity groupを指定するため、メモ帳などのエディタにコピーし、指定します。

The screenshot shows the 'Create security group' page in the AWS Management Console. A blue callout box points to the 'VPC' dropdown menu, which is circled in red. The callout text reads: 'My VPCを選択すること (Default VPCは選ばない)'. The dropdown menu lists three VPCs: 'vpc-afa21fd7 (DEFAULT-VPC)', 'vpc-0631e388a98ad7309 (My VPC)', and 'vpc-0631e388a98ad7309 (My VPC)'. The 'My VPC' option is highlighted. Below the dropdown, a red circle highlights the text 'This security group has no inbound rules'.

Create security group [Info](#)

A security group acts as a virtual firewall for your instance to control inbound and outbound traffic. To create a new security group, fill in the fields below.

Basic details

Security group name
Database
Name cannot be edited

Description [Info](#)
My Database Security Group

VPC [Info](#)

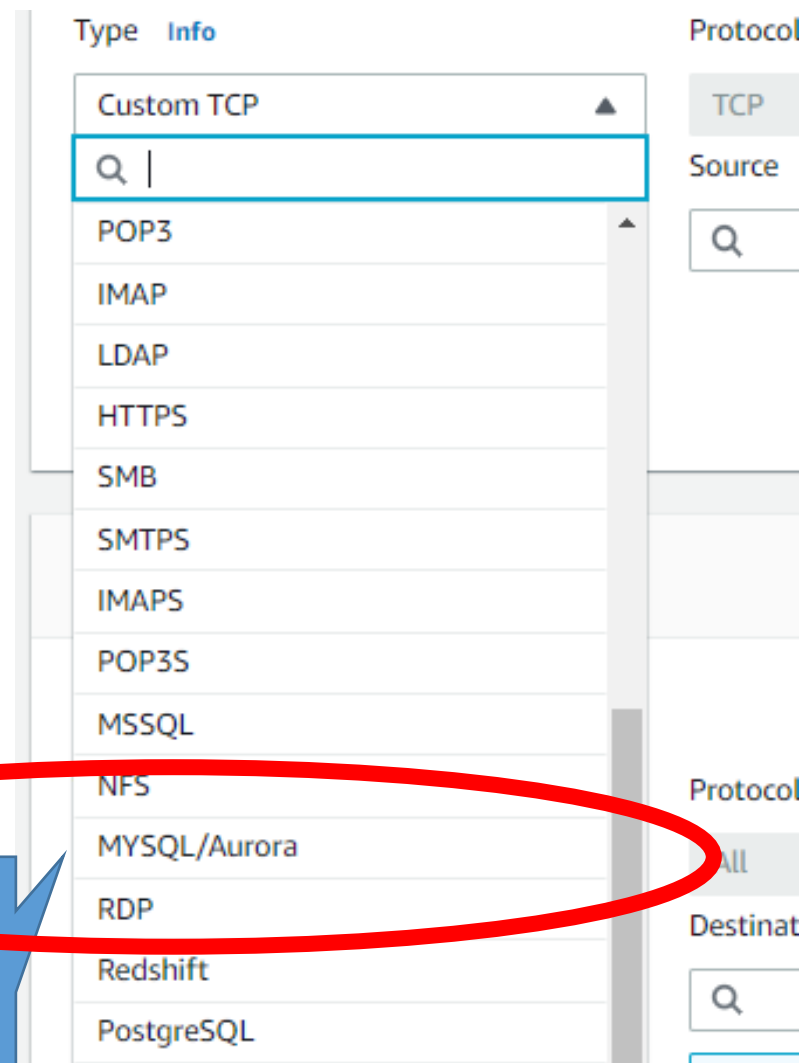
vpc-afa21fd7 (DEFAULT-VPC)
Q |
vpc-0631e388a98ad7309 (DEFAULT-VPC) 172.31.0.0/16
vpc-0631e388a98ad7309 (My VPC) 10.0.0.0/16

This security group has no inbound rules.

[Add rule](#)

- 本手順ではWebサーバのSecurity Groupからの通信かつMySQL/Auroraへの通信ポートのみの接続を許可します。
- 英語の注意書きにもあるようにMS SQLと間違えないでください。

MYSQL/Auroraを選択（MSSQLは選はない）



Inbound rules [Info](#)

Inbound rule 1 Delete

Type Info	Protocol Info	Port range Info
MYSQL/Aurora ▼	TCP	3306
Source type Info	Source Info	Description - optional Info
Custom ▼	<div>Q</div> <div>sg-075472325a30886c9 X</div>	

Add rule

Security GroupはCUSTOMでSecurity GroupIDを指定
(選択肢にでています)

Task9:データベースサブネットグループを指定する

- データベースの場合、設定に
よってデータベース（主に接続
するデータベースサーバー）の障
害に対応して稼働するデータベ
ースサーバー（ゾーンに構築す
ることで可用性を高めます。
- ここではデータベースを配置
するサブネットグループを設
定します。
- 両方ともprivate subnetになる
ことに気を付けてください。

Add subnets

Availability Zones

Choose the Availability Zones that include the subnets you want to add.

Choose an availability zone ▼

us-west-2a ✕

us-west-2b ✕

Subnets

Choose the subnets that you want to add. The list includes the subnets in the selected Availability Zones.

Select subnets ▼

subnet-01a15554f4f10a20f (10.0.3.0/24) ✕

subnet-04d6ffb15f122fbe6 (10.0.4.0/24) ✕

Subnets selected (2)

Availability zone	Subnet ID	CIDR block
us-west-2b	subnet-04d6ffb15f122fbe6	10.0.4.0/24
us-west-2a	subnet-01a15554f4f10a20f	10.0.3.0/24

Task10:Amazon RDSデータベースを構築する

- 本手順ではMy SQLデータベースをインストールします。
- 本ラボでは時間短縮のためもあり、ほとんどの設定ははずしています。
- データベースが完成するまでは多少待ちますので、よければちょっと休憩してもよいかもしれません。
(Task 1 1 は単なる稼働確認です)
- 時々、refreshをおして、statusがAvailableになっているかを確認してください。

Connectivity 🔄

Virtual private cloud (VPC) [Info](#)
VPC that defines the virtual networking environment for this DB instance.

My VPC (vpc-0631e388a98ad7309) ▼

Only VPCs with a corresponding DB subnet group are listed.

① After a database is created, you can modify the VPC and DB subnet group.

Additional connectivity configuration

Subnet group [Info](#)
DB subnet group that defines which subnets and IP ranges the DB instance can use in the VPC you selected.

my subnet group ▼

Public access [Info](#)

☐ Yes
Amazon EC2 instances and devices outside the VPC can connect to your database. Choose one or more VPC security groups that specify which EC2 instances and devices inside the VPC can connect to the database.

☒ No
RDS will not assign a public IP address to the database. Only Amazon EC2 instances and devices inside the VPC can connect to your database.

VPC security group
Choose one or more RDS security groups to allow access to your database. Ensure that the security group rules allow incoming traffic from EC2 instances and devices outside your VPC. (Security groups are required for publicly accessible databases.)

☒ Choose existing
Choose existing VPC security groups

☐ Create new
Create new VPC security group

Existing VPC security groups

Choose VPC security groups ▼

Database ✕

Availability Zone [Info](#)

No preference ▼

- 不要な設定をはずします

▼ Additional configuration

Database options, backup disabled, backtrack disabled, Enhanced Monitoring disabled, maintenance, CloudWatch Logs, delete protection disabled

Database options

Initial database name [Info](#)

myDB

If you do not specify a database name, Amazon RDS does not create a database.

DB parameter group [Info](#)

default.mysql8.0

Option group [Info](#)

default:mysql-8-0

Backup

Creates a point in time snapshot of your database

☐ Enable automatic backups

Enabling backups will automatically create backups of your database during a certain time window.

Monitoring

☐ Enable Enhanced monitoring

Enabling Enhanced monitoring metrics are useful when you want to see how different processes or threads use the CPU

Log exports

Select the log types to publish to Amazon CloudWatch Logs

☐ Error log

☐ General log



☐ Slow query log


IAM role

The following service-linked role is used for publishing logs to CloudWatch Logs.

RDS service-linked role


Databases


☒ Group resources    




 *Filter databases*

Availableになるまで待ちます

DB name	Region & AZ	Size	Status	CPU	Current activity
mydb	us-west-2a	db.t2.micro	 Available	-	

 **DB identifier**

 mydb

AvailableになったらDB名をクリックし、下に情報を表示します

こちらをコピーし、Webアプリケーションにペーストします

Connectivity & security

Endpoint & port	Networking	Security
Endpoint mydb.cgustb68ocot.us-west-2.rds.amazonaws.com	Availability zone us-west-2a	VPC security groups Database (sg-0ec43233d1a49a7c9) (active)
Port 3306	VPC My VPC (vpc-0631e388a98ad7309)	Public accessibility No
	Subnet group my subnet group	Certificate authority rds-ca-2019
	Subnets subnet-04d6ffb15f122fbe6 subnet-01a15554f4f10a20f	Certificate authority date Aug 23rd, 2024

Task11：アドレス帳アプリケーションへアクセスして、情報をいれてみる。

- 現時点でWebサーバ経由のリクエストをデータベースに格納できる簡単なアプリケーションが利用できるようになっています。
- DBの接続情報をWebアプリケーションに入力することで簡単なアドレス帳をつくれます。
- 手順79はブラウザからのリクエストになるため、別のタブをひらいておきましょう。

End Lab

- End Labの手順を行わなくても時間がたつとラボは強制終了となります。

終わった人のためのおまけ

- 本手順を実行した場合、Webサーバへのログインはできません。また、pingコマンドも到達しません。さて、ログインするために必要な設定はなんでしょう。
- EC2とRDS、作成する手順の中での違いはなんでしょう。か。
（もし、MySQLをEC2上に構築する場合、どのような手順が必要でしょう）
- 本ネットワークの構成図を書いてみてください。また、講師はセキュリティ上、本構成はあまり推奨しません。なぜでしょう。